

景況動向指数(Diffusion Index)

(2023年10月～12月)

(商業連合会調査)

(商業連合会調査)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

* 調査期間 2023年10月～12月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が +（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

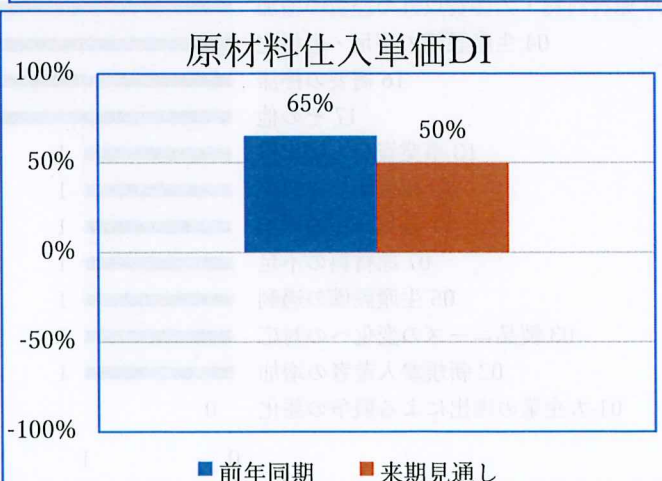
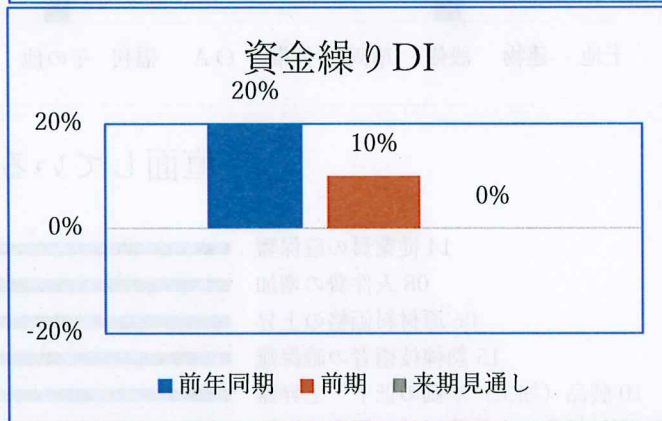
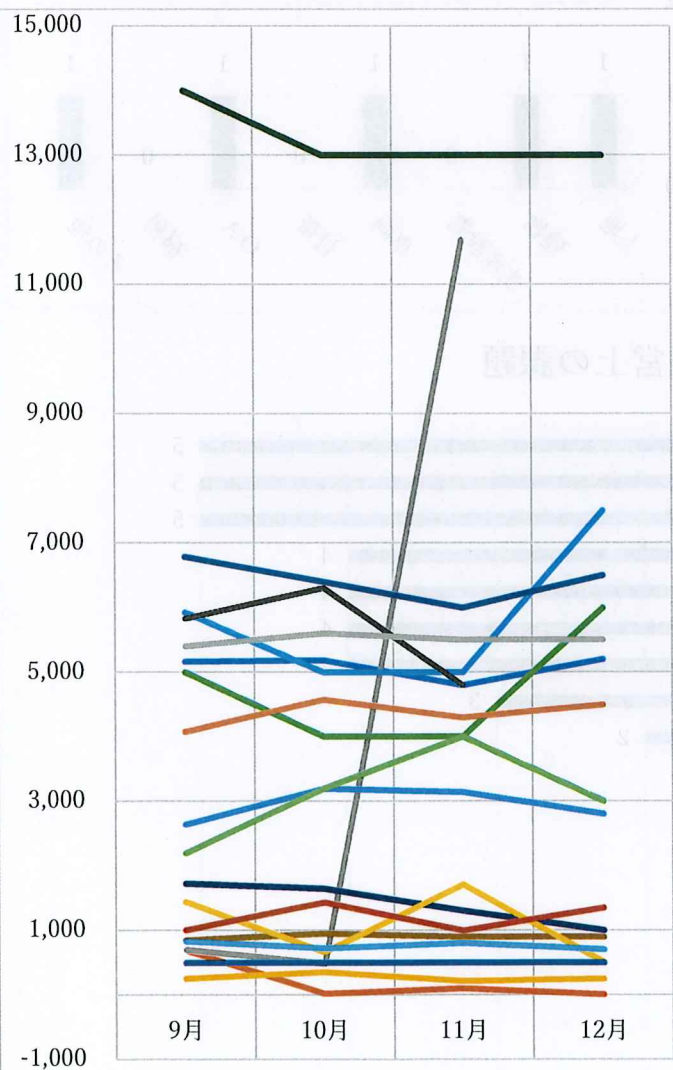
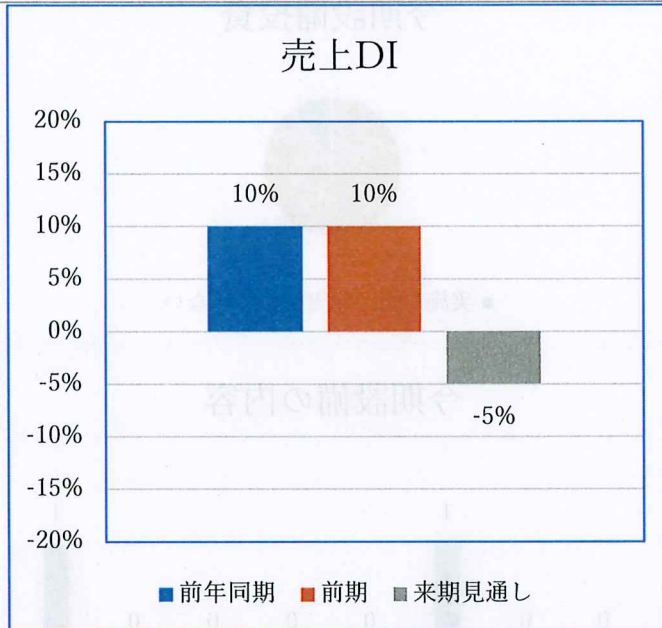
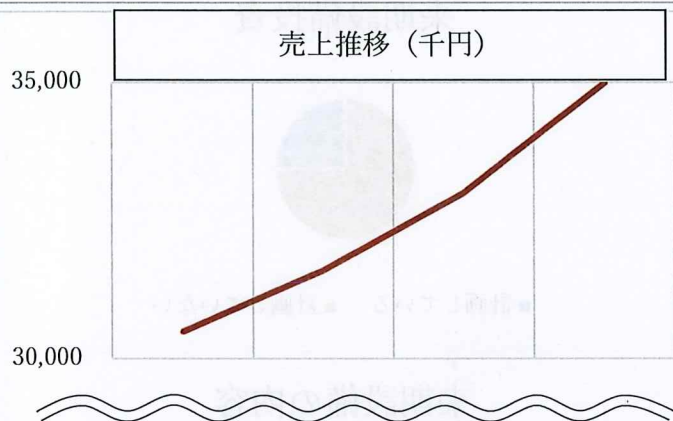
D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

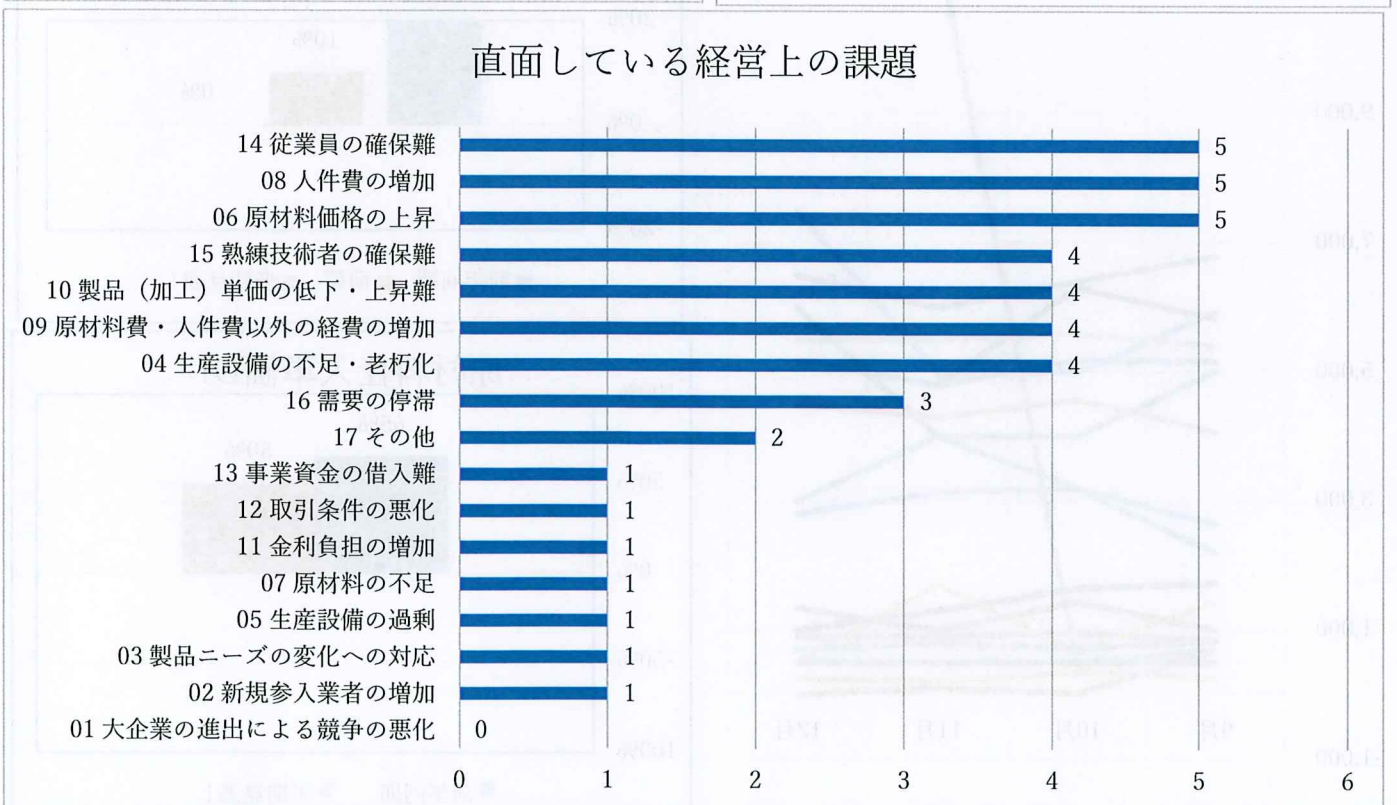
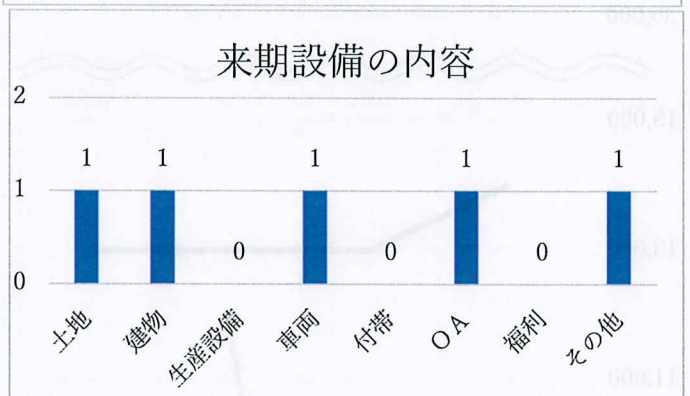
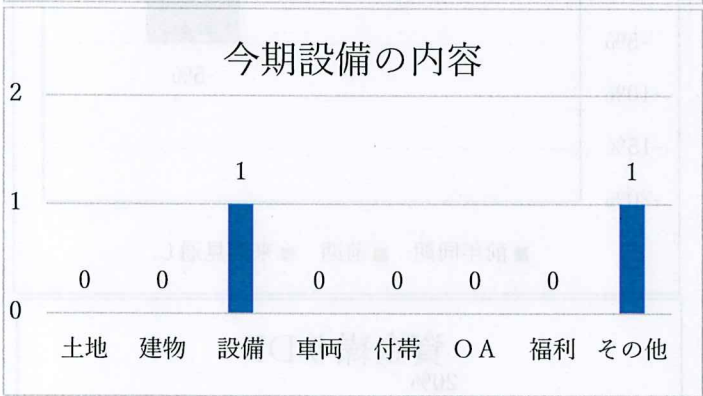
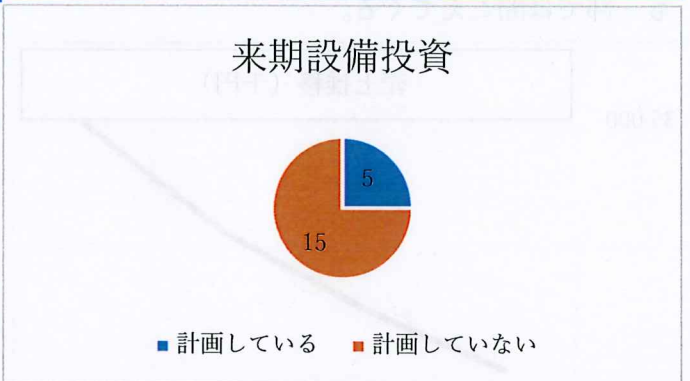
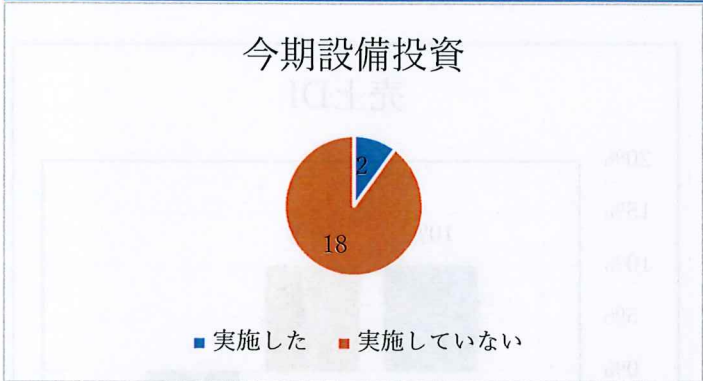
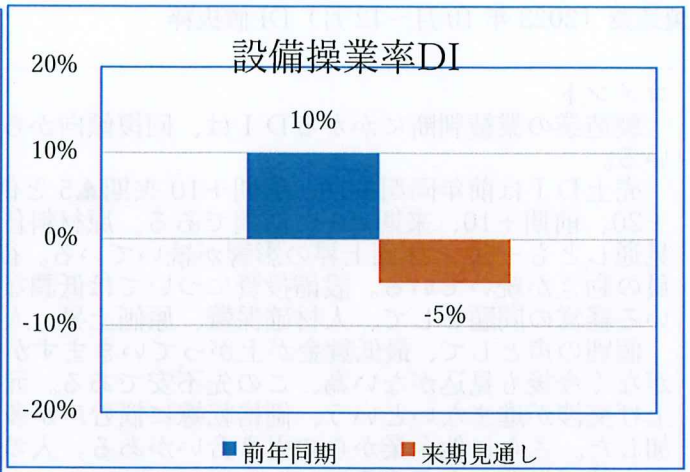
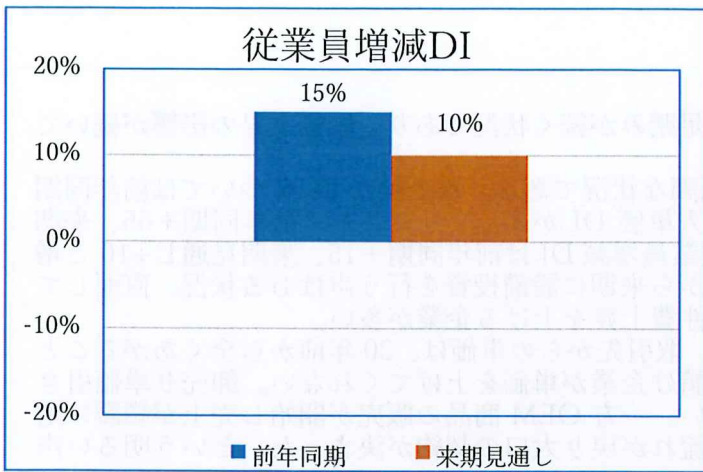
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、回復傾向から足踏みが続く状況であり、原価上昇の影響が続いている。

売上DIは前年同期+10、前期+10 来期▲5と低調な状況である。資金繰りDIについては前年同期+20、前期+10、来期±0と低調である。原材料仕入単価DIが高止まりであり、前年同期+65、来期見通しとも+50と原価上昇の影響が続いている。従業員増減DIは前年同期+15、来期見通し+10と増員の動きが続いている。設備投資については低調ながら来期に設備投資を行う声はある状況、直面している経営の問題として、人材確保難、原価上昇、人件費上昇を上げる企業が多い。

個別の声として、最低賃金が上がっていきませんが、取引先からの単価は、20年前から全くあがることなく今後も見込がない為、この先不安である。元請け企業が単価を上げてくれない。卸売り単価引き上げ交渉が進まないという、価格転嫁に悩む声が多い。一方OEM商品の販売が開始し売上が順調に増加した。さらに他企業からの引き合いがある。人の流れが戻り大口の契約が決まった。という明るい声も一部では聞こえてくる。





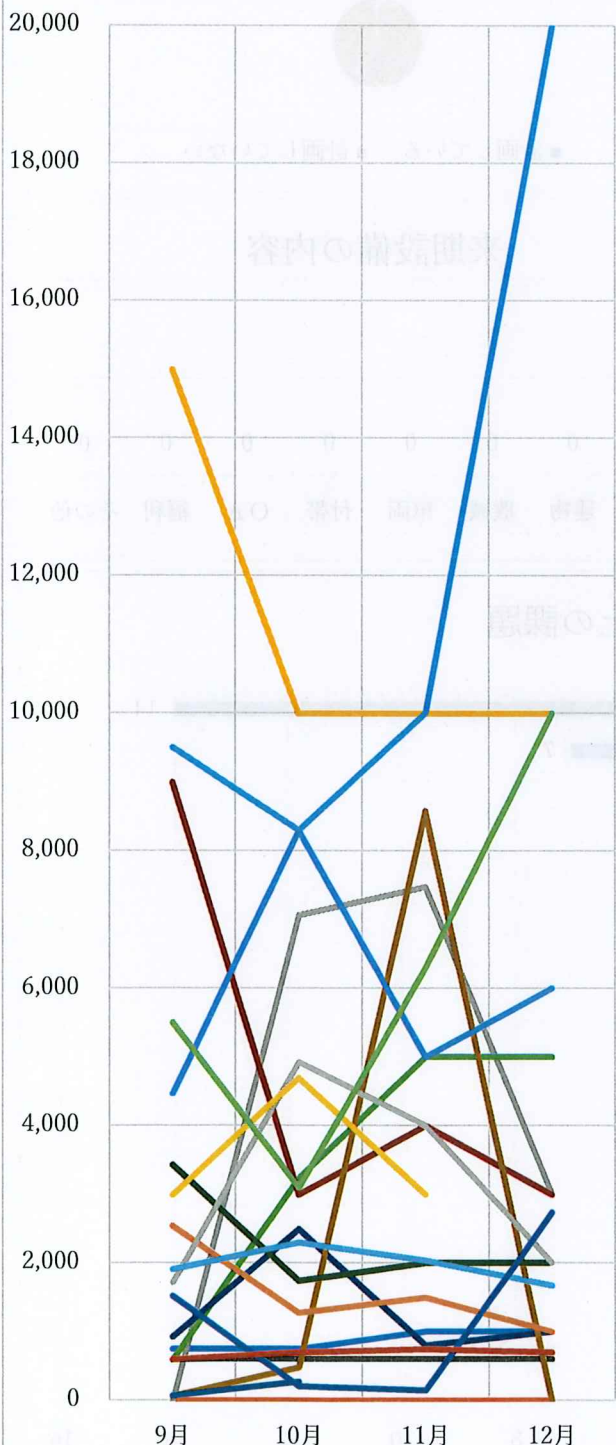
コメント

建設業の業況は、低調な状況が続いている。原価上昇の影響が続いており、採算面・資金繰り面とも厳しい状況である。

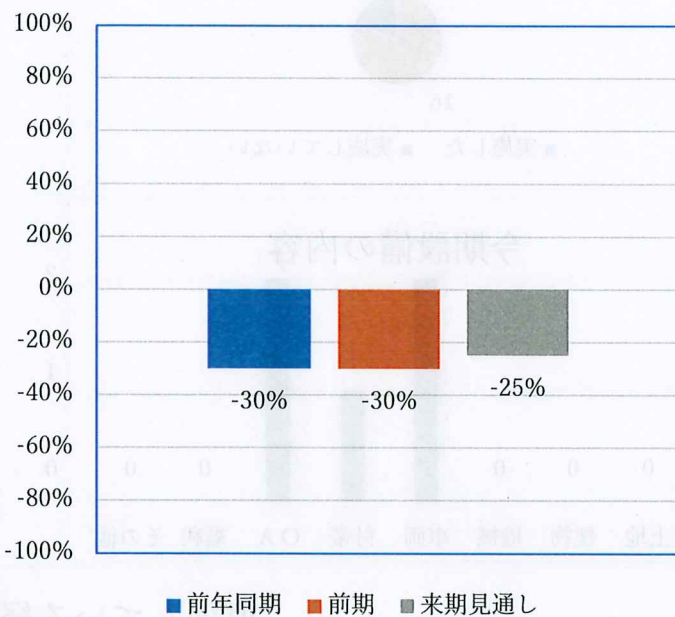
完成工事高DIは前年同期▲30、前期▲30、今後の見通しは▲25と明るい兆しも見られない状況である。原価上昇を上げる声が続く引き続き多く、前年同期で値上がり+70と企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+60と依然として上昇を懸念する声が増えている。採算DIも前年同期▲35、来期も▲30と採算悪化が続いている。資金繰りも前年同期▲30、前期比▲30、見通しは▲25と資金繰りが厳しい状況が続いている。設備投資も停滞しており来期はゼロの状況である。

個別の声として、夏までは引合いも受注も順調にありましたが秋になり止まってしまった。大きな現場がありません。法律の改正などがあり、建築工事にかかる解体工事に費用がかかるなどの影響がある。リフォーム工事にも長浜市への届け出が必要になる方向であり、工事費用の増大による工事の受注難が心配であるといった、不安の声が多い。新築が経たない状況で新たな受注に窓口を広げて売り上げが下がらないような努力をしていく。自社の請負を増やす対策を練らないといけない。といった経営の工夫を上げる声もあった。

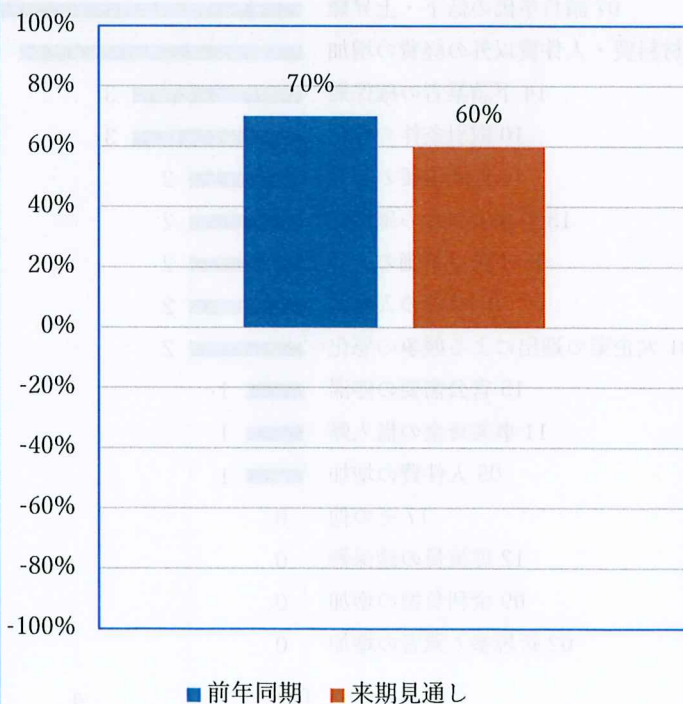
売上推移（千円）



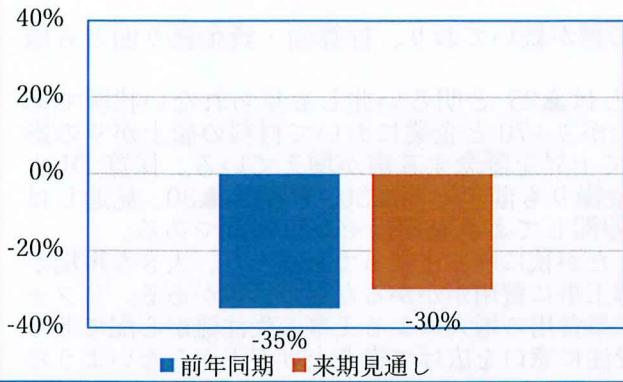
完成工事DI



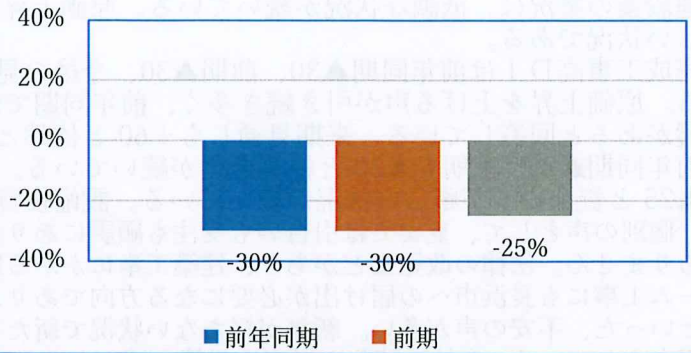
材料仕入れ単価DI



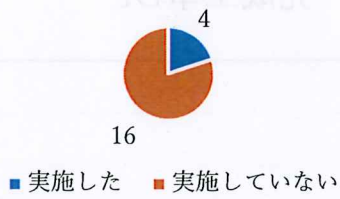
採算DI



資金繰りDI



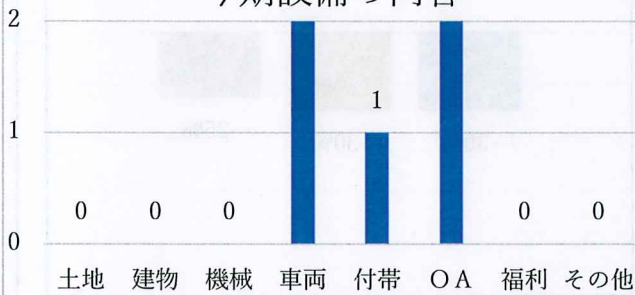
今期設備投資



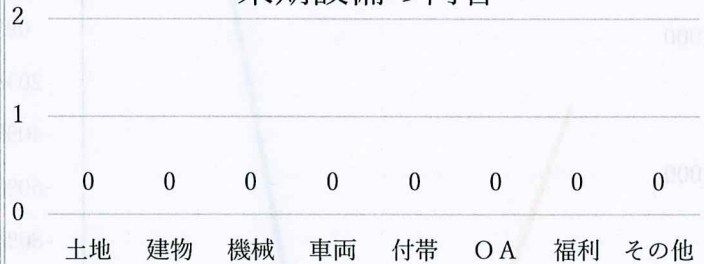
来期設備投資



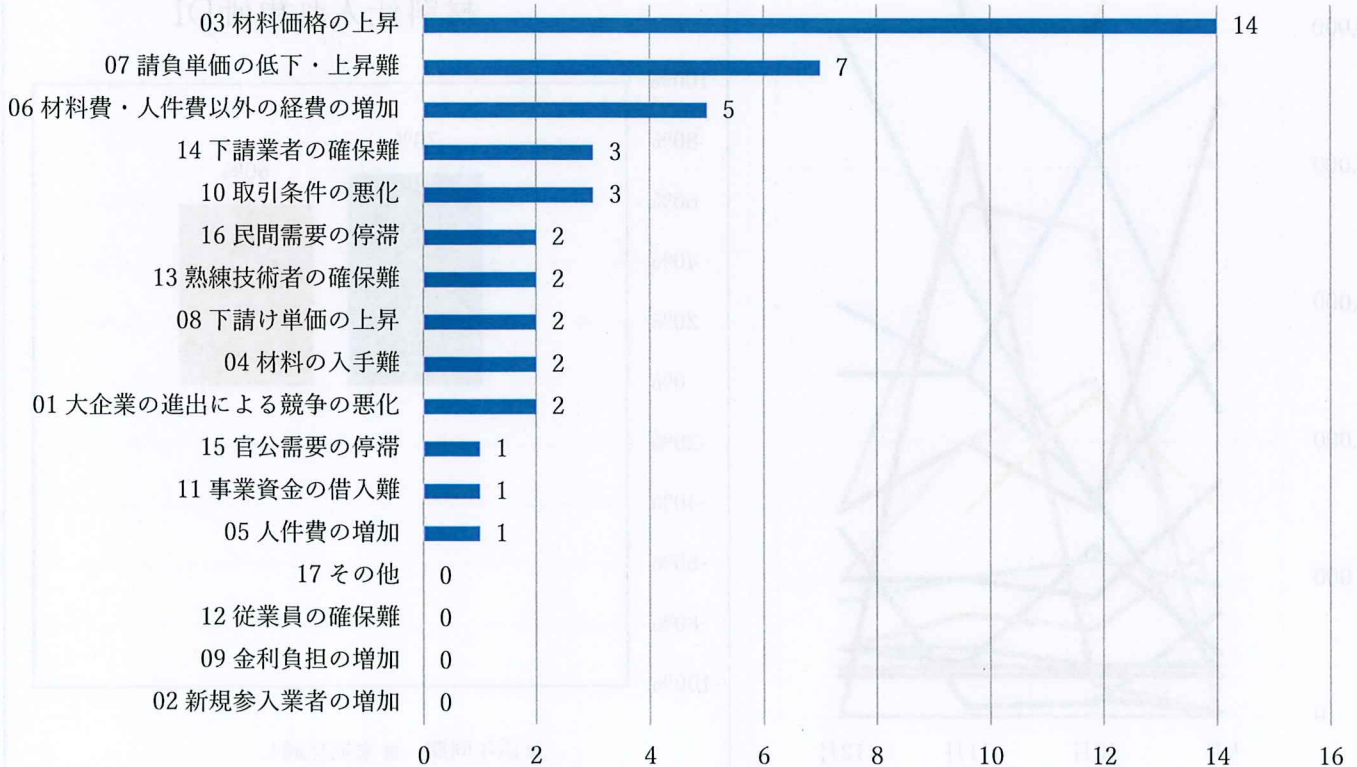
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

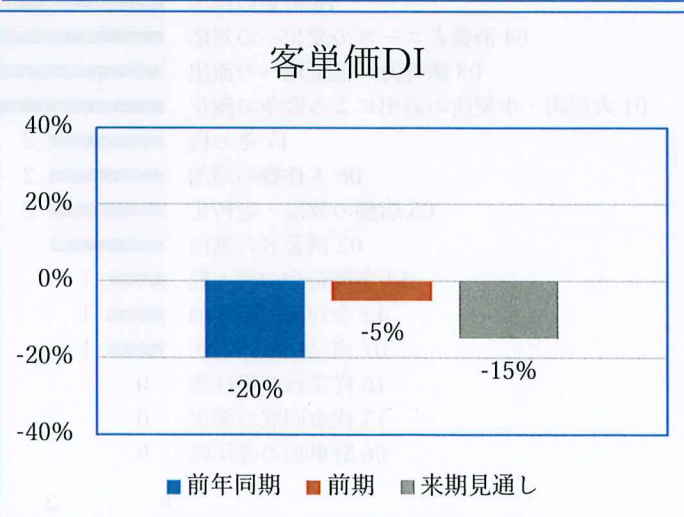
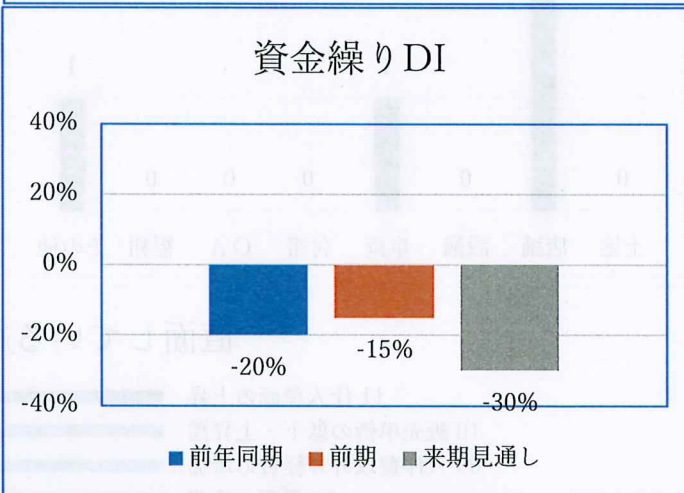
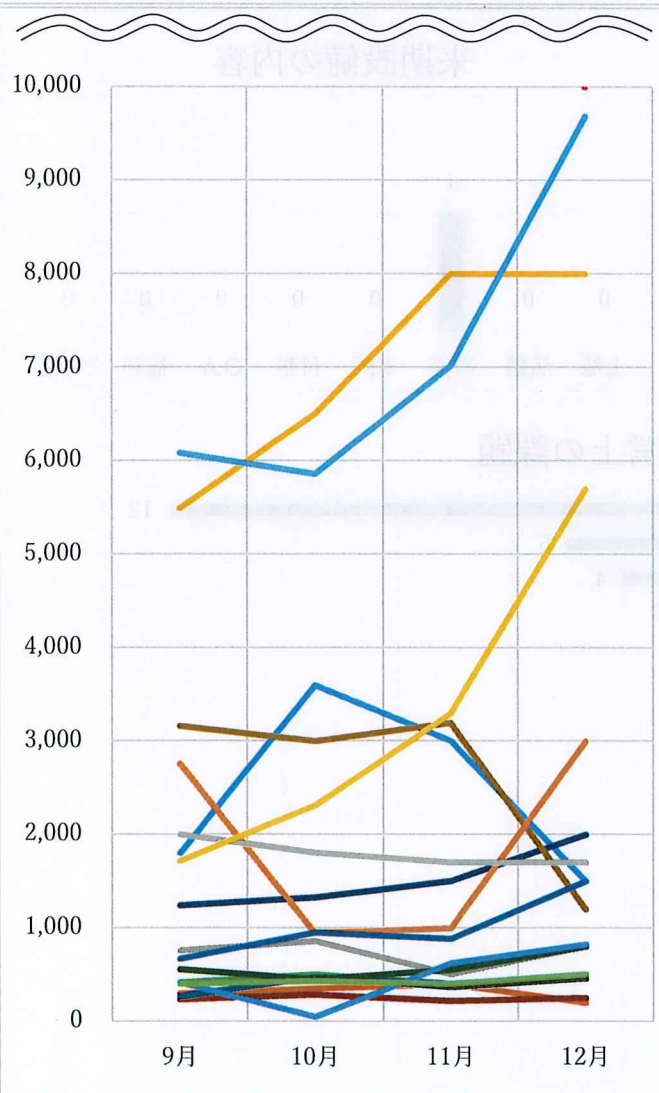
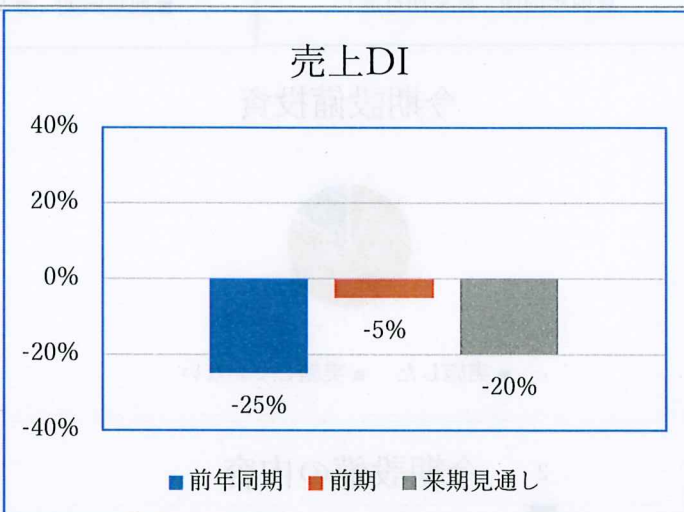
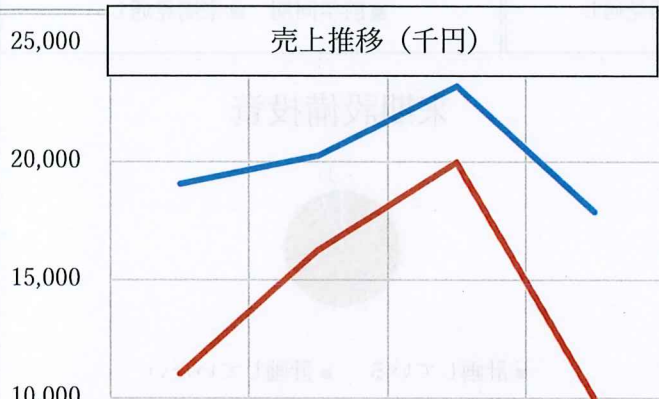


卸小売業（2023年10月～12月）DI値抜粋

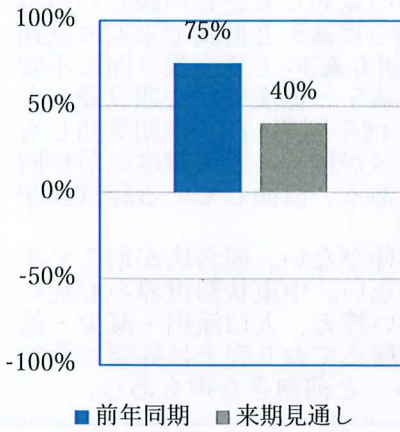
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、引き続き低調な状況が続いており改善の見通しも乏しい厳しい内容である。原価上昇の影響が続いている。売上DIは前年同期▲25、前期からは▲5と低調で来期の見通しも▲20と厳しい。資金繰りDIについては前年同期▲20、前期▲15、来期も▲30で資金繰り面に不安を抱える声が依然として大きい。客単価の減少傾向は前年同期▲20、前期▲5と低調で、来期見通しも▲15と回復が見えない状況である。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+75、来期見通しも+40と原価上昇が収益を圧迫しており採算DIも前期、見通しともマイナスが続く。借入難度の前年同期▲5、来期見通しとも▲10と不安の声が増えている。設備投資も低調である。直面している経営課題として、仕入れ価格上昇を上げる企業が圧倒的に多い。

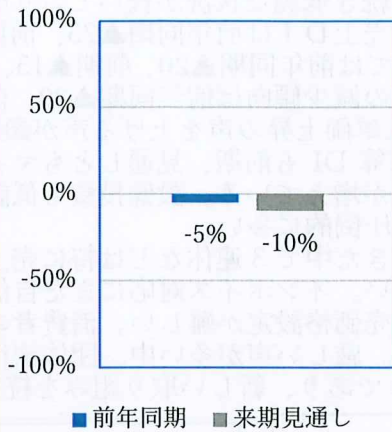
個別の声として、コロナも落ち着いてきた中で3連休などは特に売上が伸びない。競合店が増えてきたので差別化をできるようにしていきたい。インボイス対応にまだ自信がない。中東状況世界の混乱による仕入れ価格変動及び物価高騰での販売価格設定が難しい。消費者の買い控え、人口流出・減少・他エネルギーの転換等問題が山積みである。厳しい声が多い中、団体旅行が増えており売上は好調で前年同比の15%程度の売上UPは見込めそうであり、新しい取り組みを続ける。と前向きな声もある。



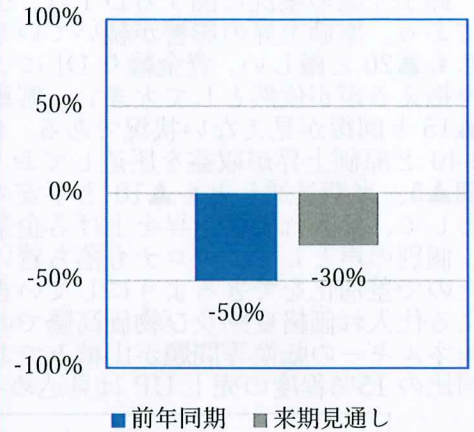
仕入単価DI



長期借入難度DI



採算（経常利益）DI



今期設備投資



来期設備投資



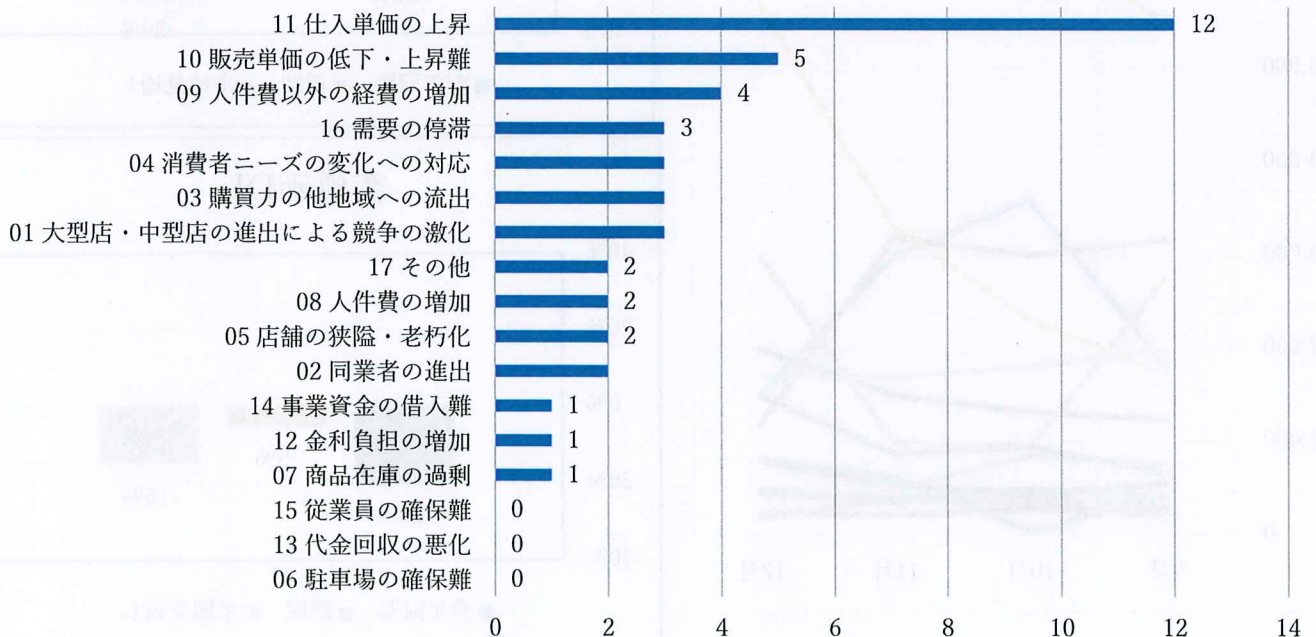
今期設備の内容



来期設備の内容



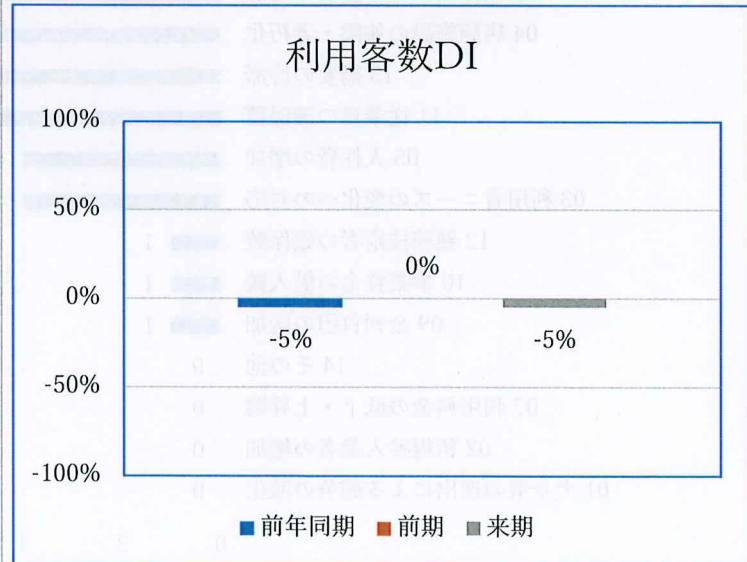
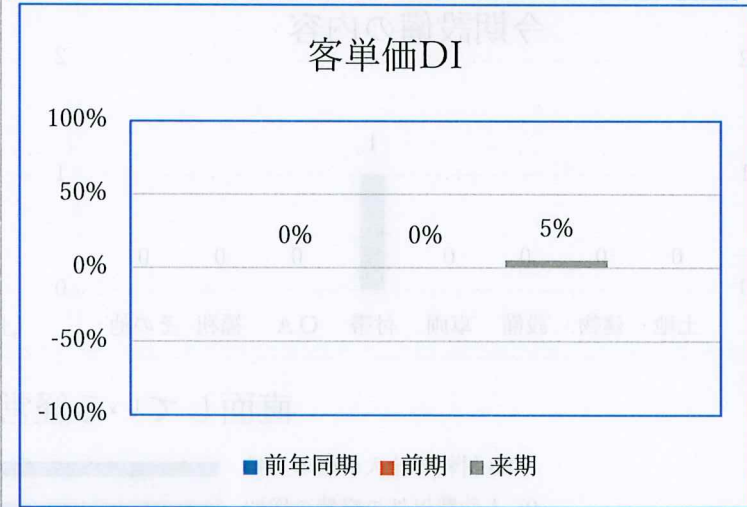
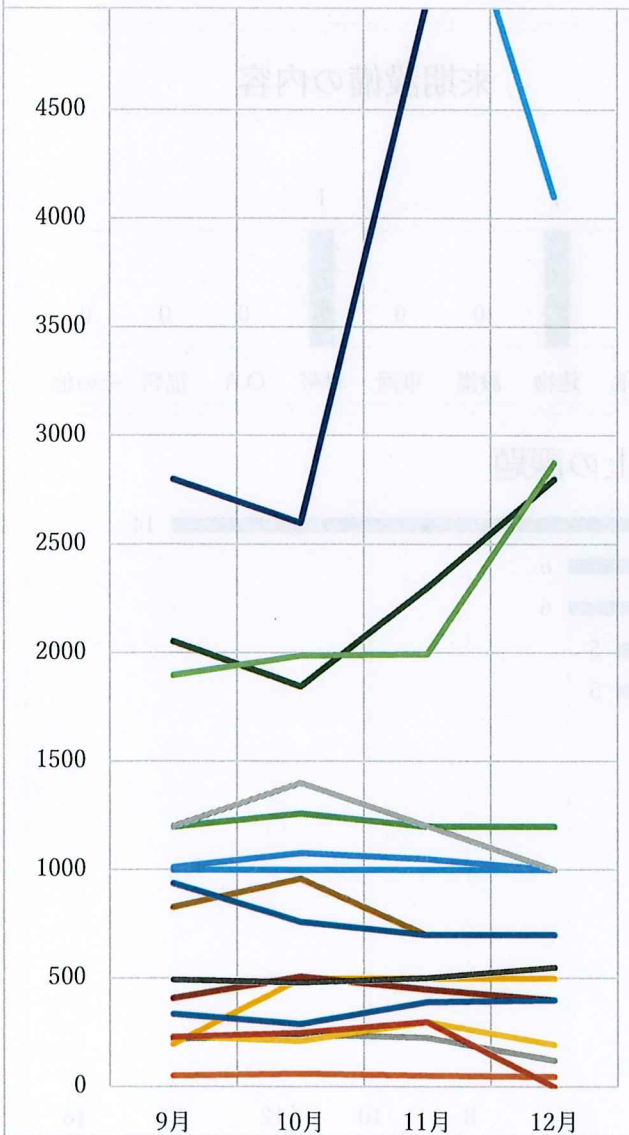
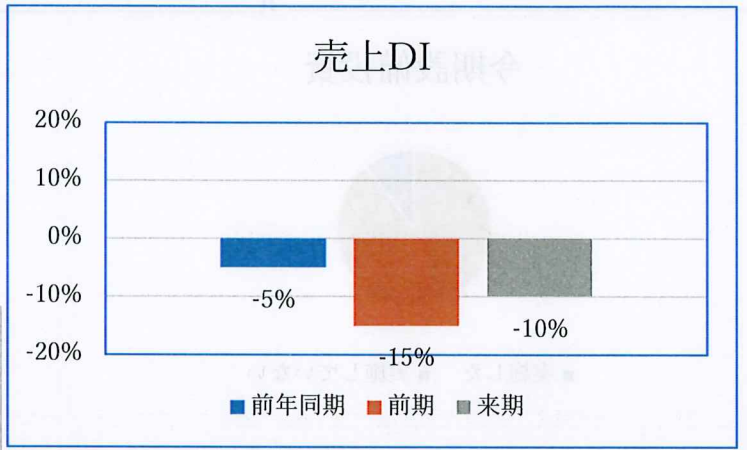
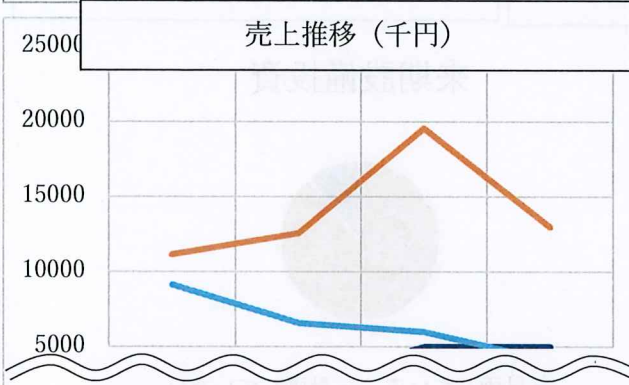
直面している経営上の課題



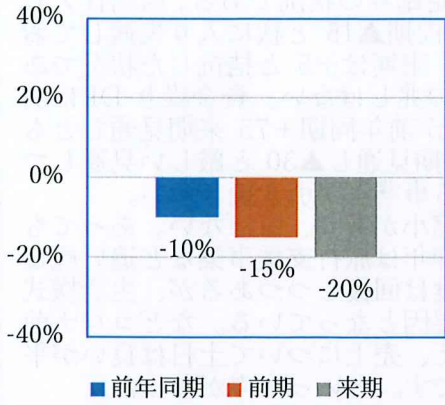
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、5類変更後の回復傾向が止まり、足踏みの状況である。材料仕入れ単価の上昇により厳しい採算が続いている。売上DIは前年同期▲5、前期▲15と秋に入り失速しており、来期も▲10と低調である。客単価DIは前年同期、前期とも±0、来期は+5と拮抗した状況である。利用客数DI前年同期▲5、前期±0、今後の見通しは▲5と伸長の兆しはない。資金繰りDIは前年同期▲10 前期▲10 来期▲20と悪化が顕著である。仕入単価の上昇が前年同期+75 来期見通しとも+70と原価上昇の状況が収益を圧迫しており、採算は前年同期▲30 来期見通し▲30と厳しい見通しである。設備投資は低調である。経営課題には原価、経費の増加を上げる事業者が引き続き多い。

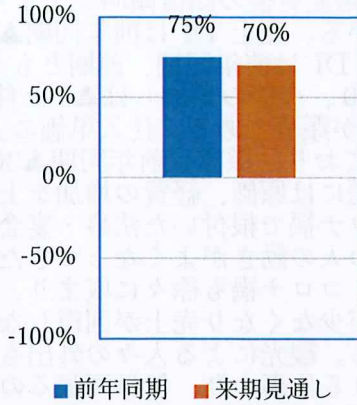
個別の声として、地元のお客様はコロナ禍で根付いた法事・宴会の縮小があり、ほぼない。あっても家族だけの集まりで終わる。旅行などの人の動きがよくなってきた。去年は旅行支援事業など追い風となって宿泊客が大幅に伸びた。今年度、コロナ禍も徐々に収まり、飲食は回復しつつあるが、生活様式がコロナ前と一変し、多人数での飲食が少なくなり売上が回復しない要因となっている。などコロナ前の消費行動が期待できないとの声がある。観光による人々の外出も増え、売上について土日は良いが平日が今一つの時がある。天気によって左右される仕事の為、毎日頑張るのみです。といった声があった。



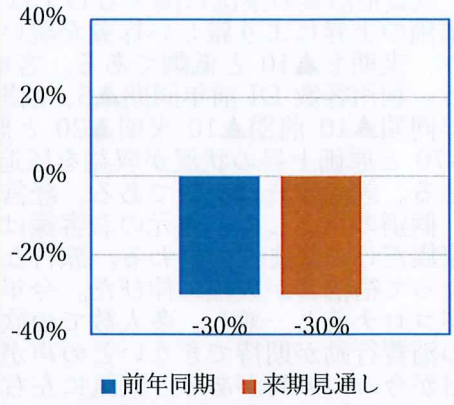
資金繰りDI



仕入単価DI



採算（経常利益）DI



今期設備投資



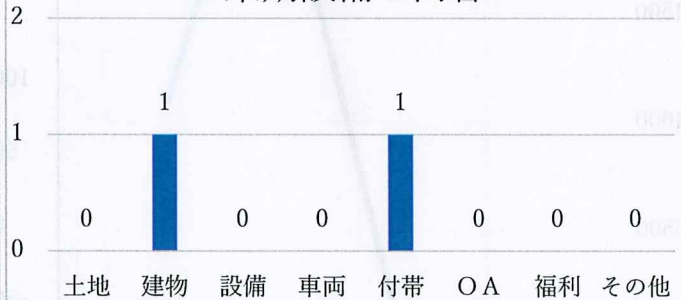
来期設備投資



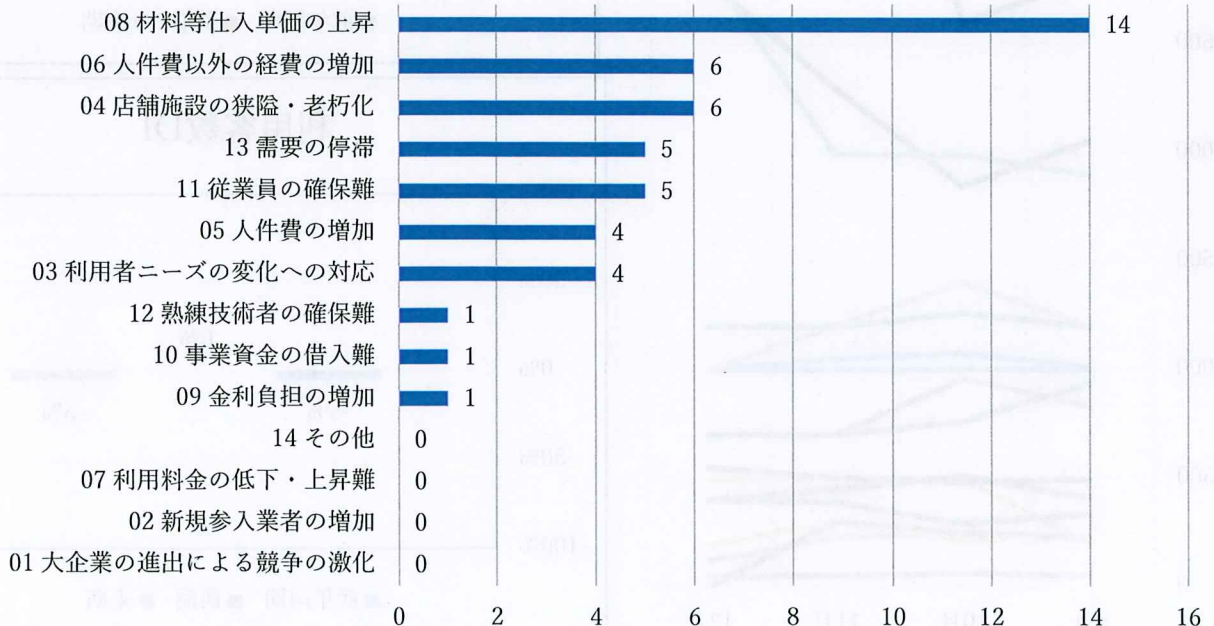
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

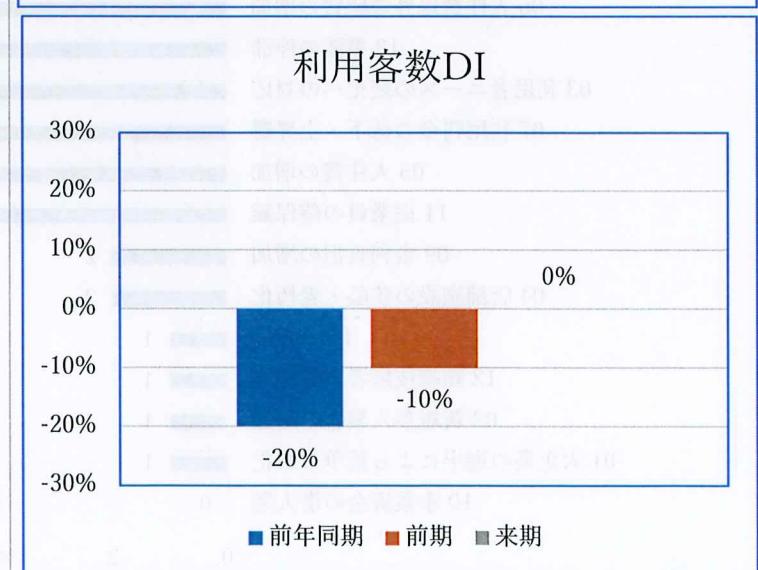
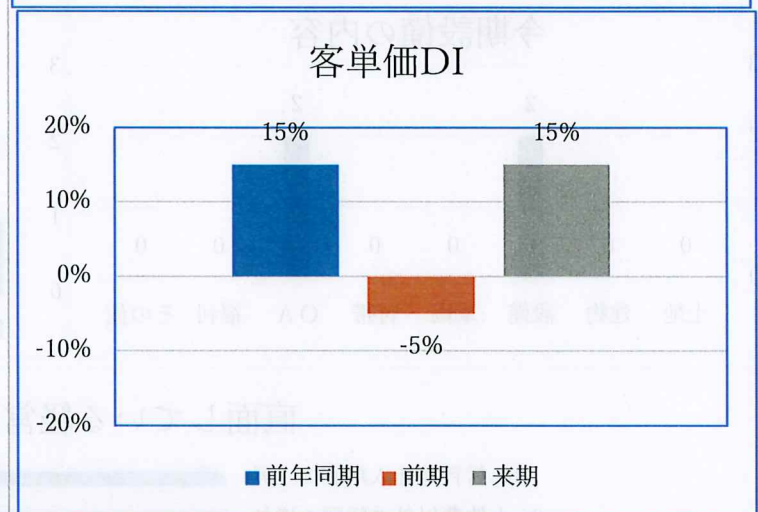
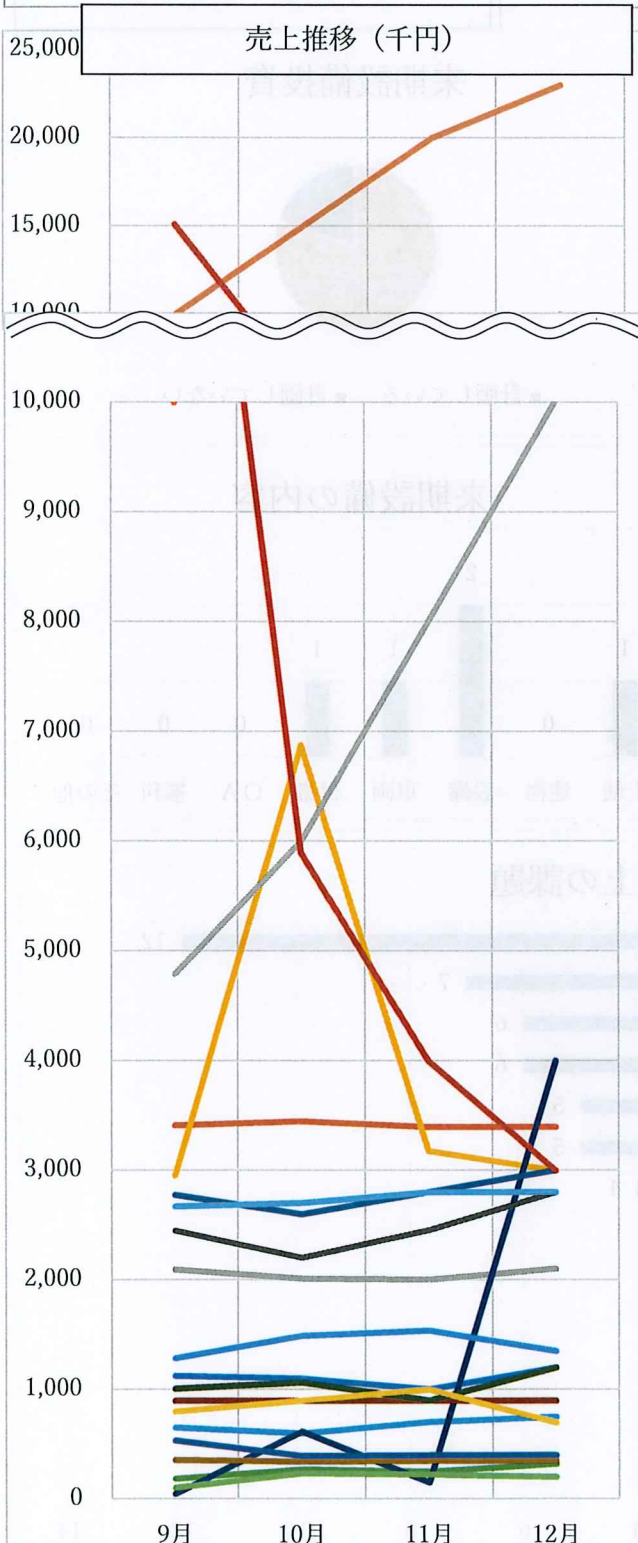


サービス業（2023年10月～12月）DI 値抜粋

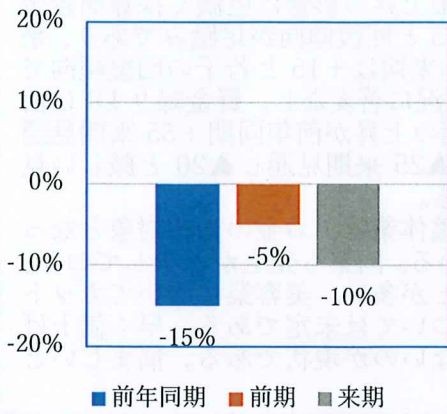
コメント

サービス業の業況は他の業種よりは回復傾向が見受けられたが、原価上昇の影響は色濃く採算面資金繰り面とも厳しい状況が続いている。売上DIは前年同期▲15、前期+5と回復傾向が足踏みであり、来期も▲10と明るい兆しがない。客単価DIは前年同期+15、前期▲5、来期は+15と若干の回復傾向である。利用客数DI前年同期▲20、前期▲10、今後の見通しは±0と状況に著変なし。資金繰りDIは前年同期▲15 前期▲5 来期▲10と資金繰り悪化が続いている。仕入単価の上昇が前年同期+55 来期見通しとも+50と原価上昇の状況が収益を圧迫しており、採算は前年同期▲25 来期見通し▲20と厳しい見通しである。設備投資は低調であるが営業設備の更新を上げる声はある。

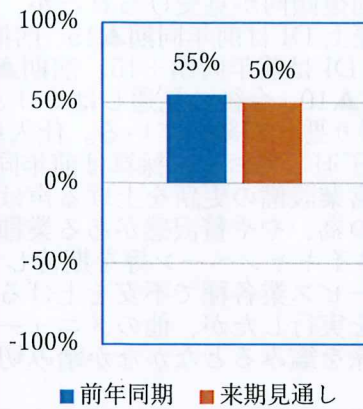
個別の声として、世間の賃上げ停滞の為、やや贅沢感がある業種の整体業は、お金の節約対象となっている様です。景気刺激策としてペイペイキャンペーン等を期待している。同業も売上が減少しており、クリーニング業界は大変である。とサービス業各種で不安を上げることが多い。美容業においてカット料金（大人）については料金の値上げを実行したが、他のメニューについては未定である。早く値上げを実行したいものだが需要と供給の関係を鑑みるとなかなか踏み切れないのが現状である。悩ましいところといった声がある。



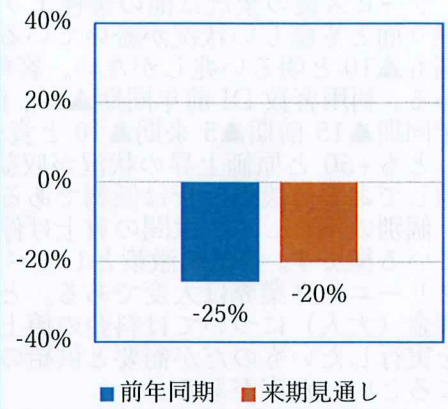
資金繰りDI



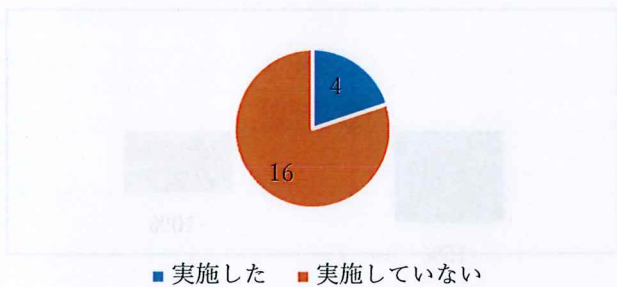
仕入単価DI



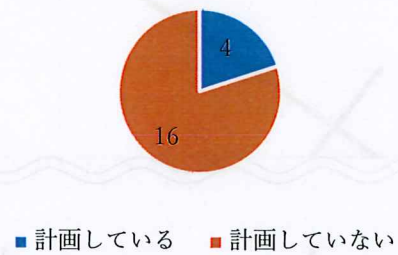
採算（経常利益）DI



今期設備投資



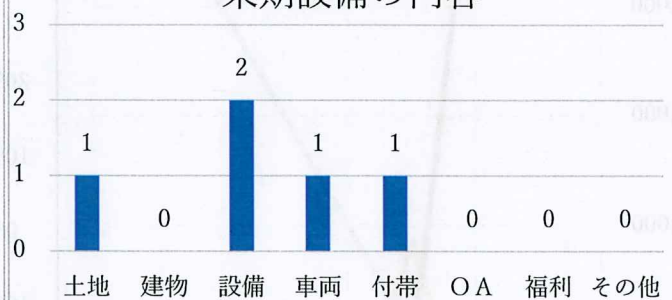
来期設備投資



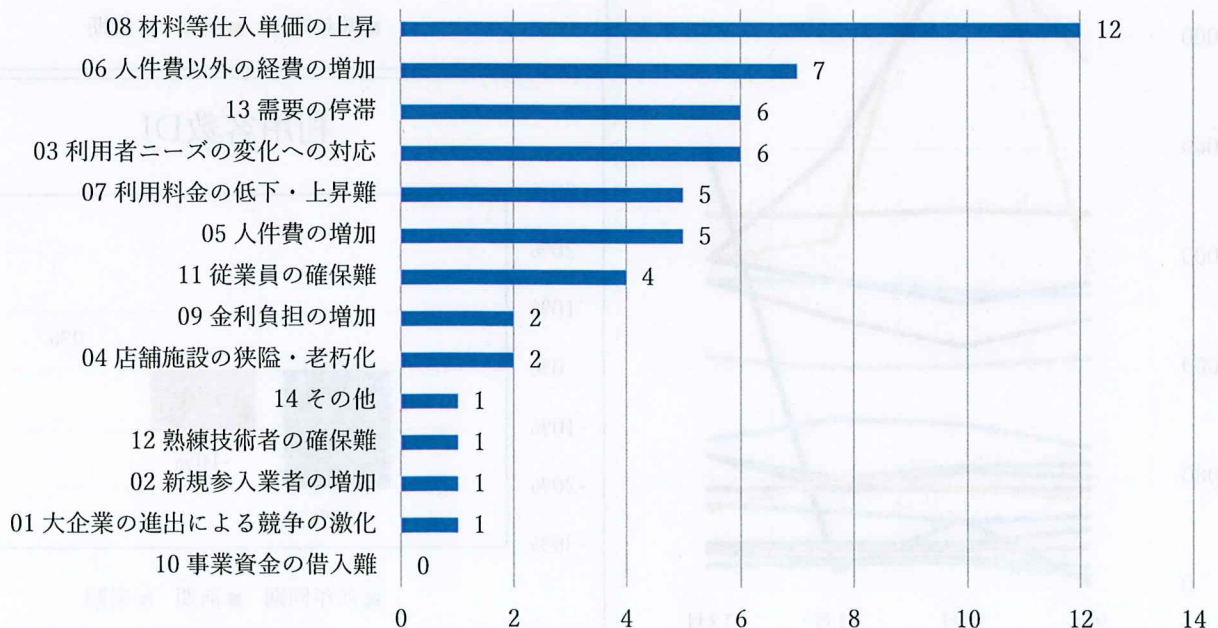
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



小規模企業景気動向調査 [2023年10月期調査]

～終わりの見えないコスト高騰に価格転嫁が追いつかない小規模企業景況～

<産業全体>

10月期の産業全体の景況は、売上額・採算・業況 DI が小幅に改善、資金繰り DI が大幅に改善し、全 DI が改善した。業種により異なるものの、価格転嫁が進んでいるが、コスト上昇の勢いに追いつかず、利益は変わらないとのコメントが見られた。外出機会の増加や、インバウンド需要は伸びを見せており、業況好転の兆しがみられる中で、賃金引き上げや、インボイス対応、人手不足対策に苦慮する事業者は多い。

| DI | 9月 | 10月 | 前月比 |
|------|-------|-------|-----|
| 売上額 | 56 | 77 | 21 |
| 採算 | ▲ 321 | ▲ 275 | 46 |
| 資金繰り | ▲ 273 | ▲ 223 | 50 |
| 業況 | ▲ 203 | ▲ 161 | 42 |

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)> 取扱製品によって受注量が変動し、業況の分かれる製造業

製造業は、売上額・資金繰り DI が小幅に改善、採算・業況 DI が大幅に改善した。円安の影響から、取り扱い製品によって受注量に差が生じ始めている。食料品関連は、採算・業況 DI が大幅に改善した一方で、売上額 DI が小幅に悪化。価格転嫁において、自社と取引先との価格転嫁のタイミングがあわず、利益を圧迫している、とのコメントが見られた。繊維関連は、売上額・資金繰り DI が小幅に改善、業況 DI が大幅に改善した。機械・金属関連は、全 DI が改善し、売上額・採算・業況 DI が大幅に改善した。

| DI | 9月 | 10月 | 前月比 |
|------|-------|-------|-----|
| 売上額 | 37 | 59 | 22 |
| 採算 | ▲ 376 | ▲ 322 | 54 |
| 資金繰り | ▲ 298 | ▲ 264 | 34 |
| 業況 | ▲ 242 | ▲ 171 | 71 |

<建設業> 公共事業の受注が増加するも、人手不足対策に苦慮する建設業

建設業は、売上額 DI が小幅に改善し、資金繰り・業況 DI が大幅に改善した。公共事業を中心として受注は増加傾向となったが、労働力不足の影響は深刻で、工期の延長・延期等の対応をせざるをえない状況である、とのコメントが目立った。人材確保の手段として、外国人雇用を検討する事業者も多いが、受け入れのための環境整備や、雇用後の定着が難しく、苦慮している状況である。また、人材不足の中でインボイス対応による事務量の増加を懸念している、とのコメントも見られた。

| DI | 9月 | 10月 | 前月比 |
|------|-------|-------|------|
| 売上額 | 48 | 83 | 35 |
| 採算 | ▲ 329 | ▲ 331 | ▲ 02 |
| 資金繰り | ▲ 325 | ▲ 273 | 52 |
| 業況 | ▲ 258 | ▲ 205 | 53 |

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)> 消費マインドの低下と仕入れ値高騰の板挟みとなる小売業

小売業は、採算・業況 DI が小幅に改善、また資金繰り DI が大幅に改善。業界全体として、価格転嫁は進みつつあるが、買い上げ点数の減少等、消費マインド低下による買い控え傾向が強まっている。衣料品関連は、季節の変わり目での需要から、採算・資金繰り・業況 DI が大幅に改善した。食料品関連は、資金繰り DI が小幅に改善し、採算・業況 DI がわずかに悪化。仕入れ高騰分の全てを価格転嫁できずに利益が圧迫されている、とのコメントが見られた。耐久消費財関連は、採算・資金繰り・業況 DI が小幅に改善し、売上額 DI が小幅に悪化。高額な耐久消費財への買い控えが続いている。

| DI | 9月 | 10月 | 前月比 |
|------|-------|-------|------|
| 売上額 | ▲ 07 | ▲ 1.1 | ▲ 04 |
| 採算 | ▲ 379 | ▲ 332 | 47 |
| 資金繰り | ▲ 324 | ▲ 258 | 66 |
| 業況 | ▲ 284 | ▲ 254 | 30 |

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)> コロナ明け需要で売上額 DI が安定し始めたサービス業

サービス業は、売上額・資金繰り DI が小幅に改善し、採算 DI が大幅に改善した。旅館関連は、資金繰り DI が小幅に改善、採算 DI が大幅に改善した。インバウンド需要の取り込みもあり売上額 DI は安定し、価格転嫁も進んでいる。クリーニング関連は、夏物のクリーニング需要から全 DI が改善。特に売上額・採算・資金繰り DI が大幅に改善した。コロナ前の水準に戻った、とのコメントが見られた。理・美容関連は、全 DI が改善し、特に採算 DI が大幅に改善した。来店頻度が上がり始めた、とのコメントもあった。

| DI | 9月 | 10月 | 前月比 |
|------|-------|-------|-----|
| 売上額 | 145 | 175 | 30 |
| 採算 | ▲ 199 | ▲ 115 | 84 |
| 資金繰り | ▲ 146 | ▲ 98 | 48 |
| 業況 | ▲ 27 | ▲ 14 | 13 |

調査概要

・調査対象：全国 302 商工会の経営指導員(有効回答数：228/回答率 75.4%)

・調査時点：2023年10月末

・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

